

中高一貫教育検証報告書

—さいたま市における中高一貫教育の成果と課題について—



平成25年5月

さいたま市教育委員会

＜ 目 次 ＞

- 1 はじめに……………P1
- 2 全国における中高一貫教育校の設置状況……………P1
- 3 さいたま市における中高一貫教育校のねらい……………P2
- 4 市立浦和中学校・高等学校の概要……………P2
 - (1) 市立浦和中学校・高等学校の6年間の流れ
 - (2) 6年間の教育課程
 - (3) 市立浦和中学校・高等学校の概要
- 5 市立浦和中学校・高等学校の中高一貫教育の検証……P4
 - (1) 検証目的
 - (2) 検証項目
 - (3) 検証方法
 - (4) 検証結果
 - (5) 検証のまとめ
- 6 おわりに……………P13

1 はじめに

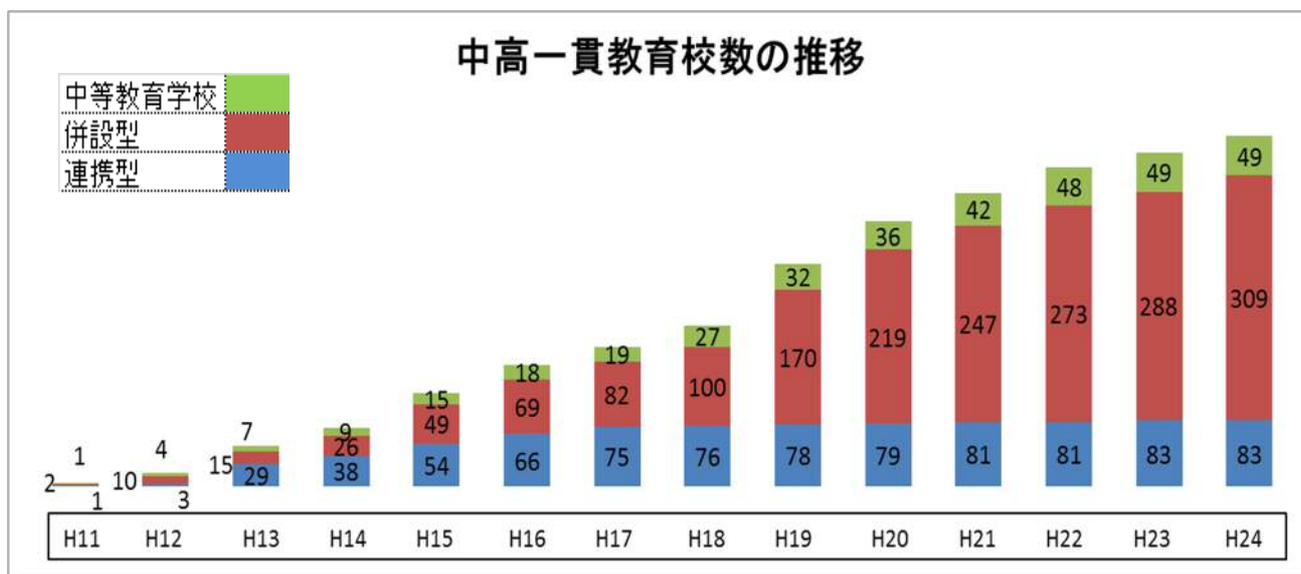
公立の中高一貫教育校は、平成9年6月の中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第2次答申）」を受けて、平成10年6月に学校教育法等の関係法令が改正され、平成11年4月に設置が制度化された。中等教育の一層の多様化の推進や、生徒の個性をより重視した教育の実現を目的としている。

本市では、平成19年4月にさいたま市立浦和中学校を開校し、さいたま市立浦和高等学校との併設型中高一貫教育がスタートした。

平成24年度は本市における中高一貫教育が始まって6年目を迎えた。平成22年4月に第1期生がさいたま市立浦和高等学校に内部進学し、平成25年3月に卒業した。これを機に、本市における中高一貫教育の充実に資することを目的に、成果と課題を検証した。

2 全国における中高一貫教育校の設置状況

平成24年4月現在、全国で441校の中高一貫教育校が設置されている。そのうち公立の中高一貫教育校が設置されている県は45都道府県であり、41都道府県においては複数校が設置されている。



○ 平成24年度の設置状況の内訳

区分	中等教育学校	併設型	連携型	計
公立	28 (28)	74 (69)	82 (82)	184 (179)
私立	17 (17)	234 (218)	1 (1)	252 (236)
国立	4 (4)	1 (1)	0 (0)	5 (5)
計	49 (49)	309 (288)	83 (83)	441 (420)

注：() は平成23年度設置校数
(文部科学省ホームページより作成)

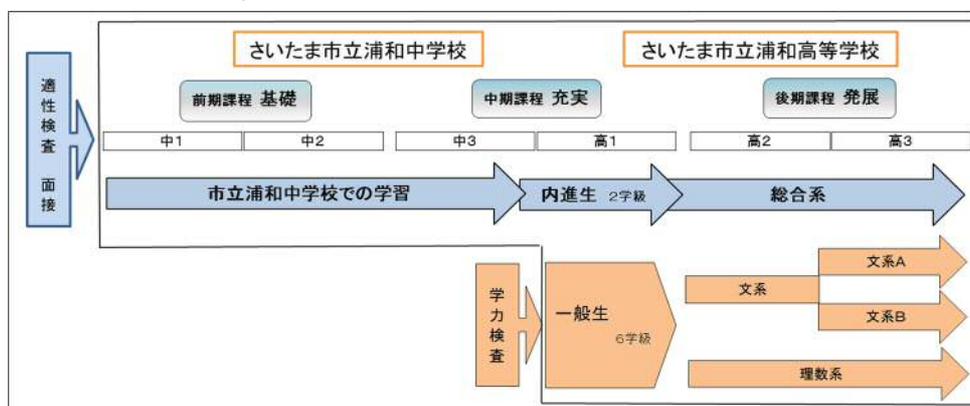
3 さいたま市における中高一貫教育校のねらい

- (1) 6年間を通じて、体系化した教育課程により、基礎・基本の徹底的な指導を行い、高い知性を養うとともに、調和のとれた教養教育を展開すること。
- (2) 国際化が年々進む政令指定都市さいたま市の現状をふまえ、日本の伝統と文化に親しむ学習を重視するとともに、国際教育を重視しグローバルな視野を磨き国際感覚を豊かにすること。
- (3) 学校行事や生徒会活動等をとおして異なった年齢の生徒が学校生活をともに送ることにより、社会性や心豊かでたくましい人間を育てること。
- (4) 計画的・継続的な進路指導により、将来の在り方や生き方を考え、高い志を抱かせ、夢や願いを実現させること。
- (5) 教育実践を市内全域に普及させていくこと。
- (6) さいたま市の将来を担う人材育成を図ること。
- (7) 児童と保護者のニーズに応えた、学校選択の幅を拡大すること。

4 市立浦和中学校・高等学校の概要

(1) 市立浦和中学校・高等学校の6年間の流れ

浦和中・高等学校は、併設型中高一貫教育校として6年間の一貫性を重視した系統的な指導を展開している。浦和中・高等学校で過ごす6年間の、前期課程(中学1・2年)、中期課程(中学3年・高校1年)、後期課程(高校2・3年)の3課程に分け、それぞれの発達段階に応じた教育活動を提供している。前期課程では、中学校の学習内容の基礎・基本を徹底し、中期課程の中学3年生では、中高一貫教育の教育課程の特例を適用し高校へのつなぎ学習を実施し、教育内容を充実させ、発展的な学習内容を積極的に取り入れ高校の学習にスムーズに移行できるよう工夫している。後期課程では、文系・理系の両方に対応できる総合系の教育課程により、国公立難関大学への受験を視野に入れた学習指導を展開している。



注：内進生とは、市立浦和中学校から市立浦和高等学校に内部進学した生徒をいう。また、一般生とは、市立浦和中学校以外から市立浦和高等学校に入学した生徒をいう。

(2) 6年間の教育課程（平成24年度）

		週時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34						
中学校	前期課程 基礎	1学年	国語		数学		社会		理科		音美		保体		技家		英語		MSU		※1		総		道徳		特活															
		2学年	国語		数学		社会		理科		音美		保体		技家		英語		MSU		※2		総		道徳		特活															
	中期課程 充実	3学年	国語		数学		社会		理科		音美		保体		技家		英語		MSU		※3		総		道徳		特活															
高校	後期課程 発展	1学年	国語総合		数学Ⅰ		数学A		地理B		政経		化基		生基		芸術		体育		保健		OCⅠ		英語Ⅰ		情報		LHR		総学											
		2学年	現代文		古典		数学Ⅱ		数学B		世界史A		日本史A		物理Ⅰ		化学Ⅰ		芸術		体育		保健		英語Ⅱ		英W		家基		LHR		総学									
	3学年	現代文		古典		選択B		選択A		倫理		選択C		選択D		体育		英R		英W		情報		LHR		総学																

浦和中学校1学年の音楽と美術は年間45時間を表しています。また、※1では、英会話（12時間）と人間関係プログラム（12時間）を表しています。※2と※3では、英会話（17時間）を表しています。

- ・ 浦和中学校は週32時間授業を実施し年間1,120単位時間数を確保。
- ・ MSU（Morning Skill Up Unit）とは、一人1台のコンピュータを活用し国語・数学・英語を中心としたeラーニング学習。
- ・ 数学と英語については、高校の教員による少人数指導を展開。
- ・ 年間12回の土曜授業を実施し、保護者や地域へ毎回公開。

(3) 市立浦和中学校・高等学校の概要（平成24年度）

	浦和中学校	浦和高等学校
設置者	さいたま市	
校舎	同一敷地内に中学校と高校を設置	
開校	平成19年4月1日	昭和25年4月1日
学校教育目標 (中学) 校訓 (高校)	「高い知性と豊かな感性・表現力を備えた国際社会に貢献できる生徒の育成」 ○知性 ○創造 ○活力	学徒の本分の自覚 学究 敬讓 教養
教員数	校長（兼任1）教頭（1）主幹教諭（1）教諭（12）養護教諭（1）16名	校長（1）教頭（2）教諭（54）養護教諭（2）主任実習助手（3）62名
生徒数	240名（男子120名女子120名）	968名（男子392名女子576名）
学級数	各学年2クラス	各学年8クラスのうち2クラスが内進生
主な居住地	さいたま市内100%	さいたま市内60.4% 市外39.6%

5 市立浦和中学校・高等学校の中高一貫教育の検証

(1) 検証目的

さいたま市立浦和中学校とさいたま市立浦和高等学校における併設型中高一貫教育の充実に資するために、6年間を見通した特色ある教育実践の取組の成果と課題を検証することを目的とする。

(2) 検証項目

市立浦和中学校が開校した平成19年度の6月に「中高一貫教育推進運営協議会」が設置され、本市にふさわしい中高一貫教育を推進するため、成果を検証するとともに教育実践の普及を検討してきた。平成22年の7月に実施した「中高一貫教育校さいたま市立浦和中学校に係る中間検証報告」を踏まえ、検証項目を次のように設定した。

検証項目1 中等教育の選択幅を広げる学校としての達成状況について

中等教育の多様化・弾力化を進めるために、先進的な取組として設置された中高一貫教育校が、児童や保護者が学校を選択する際に、魅力ある学校として十分に寄与したかについて検証する。

検証項目2 特色ある教育活動の実施状況について

6年間を見通した教育課程と多くの特色ある学校行事により、中高一貫教育校ならではの教育活動を展開し、豊かな感性と表現力を備え、国際社会に貢献できる人材を育成しているかについて検証する。

検証項目3 中・高6年間の一貫した教育活動による「豊かな人間性・社会性」と「確かな学力」の育成について

6年間の一貫した教育活動を通し「豊かな人間性・社会性」を育成するとともに、「確かな学力」を身に付け、高い志を持って進路希望実現に向かっているかについて検証する。

(3) 検証方法

ア 市立浦和中学校・高等学校において、検証項目ごとに具体化した教育活動の取組を確認し、生徒へのアンケート結果や各種検定試験等の結果、進路実績などをもとに、その成果と課題について分析する。

イ さいたま市立浦和高等学校第3学年生徒アンケート結果や保護者を交えた意見交換会などにより、中高一貫教育に対する意識について分析する。

(4) 検証結果

検証項目1 中等教育の選択幅を広げる学校としての達成状況について

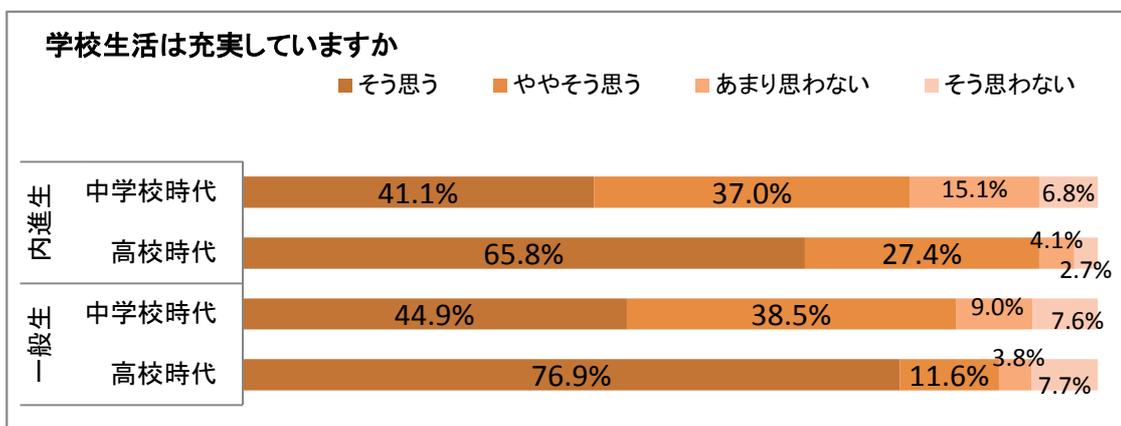
□ 入学者選抜から見る学校選択幅の拡大について

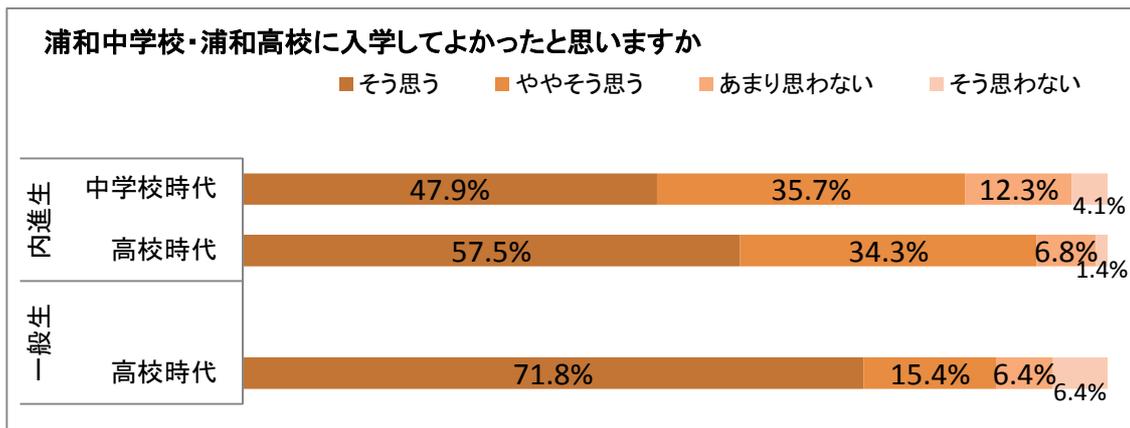
- ・ 浦和中学校への入学者選抜は、開校年度のさいたま市立小学校101校中101校からの出願を筆頭に、6年間で(平成19年度～平成24年度)すべての市立小学校から出願されている。
- ・ 浦和中学校が主催する保護者対象の平成24年度入学者選抜説明会には、市立小学校103校すべての市立小学校が参加している。
- ・ 6年間で、92校の市立小学校から入学している。
- ・ 出願者数は減少しているものの、出願校数は継続的に安定している。

<浦和中学校入学者選抜の出願者等推移>

	19年度 1期生	20年度 2期生	21年度 3期生	22年度 4期生	23年度 5期生	24年度 6期生	25年度 7期生
願書受付数	2,018人	1,191人	976人	926人	893人	723人	587人
1次選抜者数	1,993人	1,156人	923人	893人	862人	714人	575人
倍率	24.9倍	14.5倍	11.5倍	11.2倍	10.8倍	8.9倍	7.2倍
出願校数	101校	100校	95校	97校	97校	96校	97校

□ さいたま市立浦和高等学校第3学年生徒アンケートより（平成24年12月実施）





検証と課題 (○成果 ●課題)

- 入学者選抜において、6年間で（平成19年度～平成24年度）、すべての市立小学校から出願されているとともに、市立小学校92校、それぞれから入学している状況から、浦和中学校は、中等教育の選択幅を拡げる学校として十分寄与しているといえる。
- 浦和中学校の生徒は、10区から通学しており、中等教育全体の多様化、弾力化の一貫として、中高一貫教育に対する高いニーズをみることができる。
- 高校3年生の12月に実施した生徒アンケート結果では、「学校生活が充実していますか」との問に対し、「そう思う」「ややそう思う」と回答した内進生は93.2%であった。また、「浦和中学校・浦和高校に入学してよかったと思いますか」との問に対し、「そう思う」「ややそう思う」と回答した内進生は91.8%であった。
- 非常に高いニーズがあるものの、中高一貫教育校は市内1校であるため、希望がかなえられない児童が多くいる現状である。

検証項目2 特色ある教育活動の実施状況について

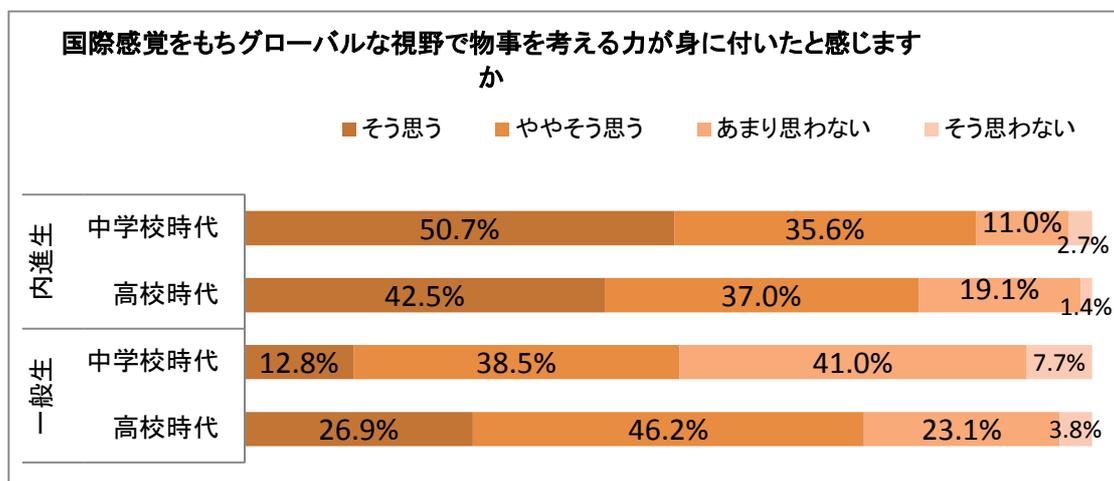
□ 基礎学力と応用力を育成する特色ある教育課程の編成とその実践

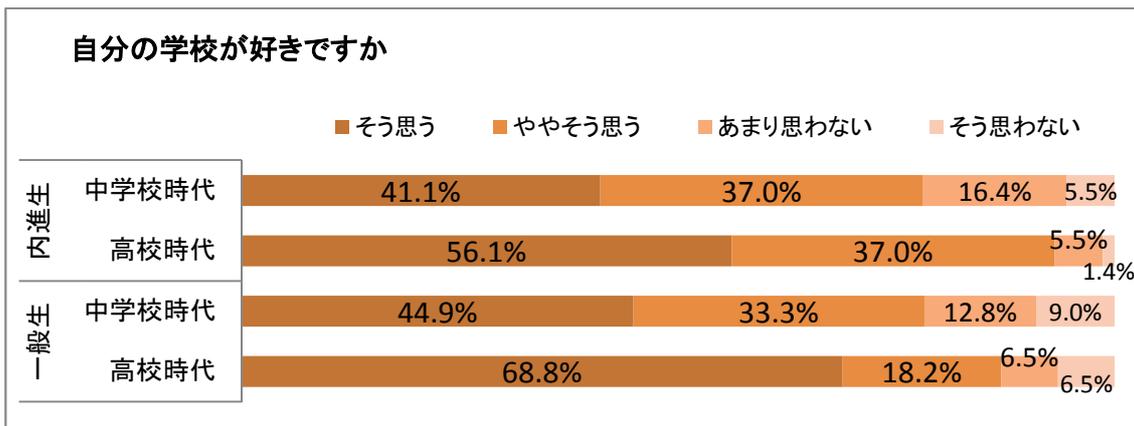
- ・ 特色ある教育課程の編成により授業時間を確保し、基礎学力と応用力を身に付ける教育活動を実践している。中学校は、週32時間の授業を展開し、高等学校では、隔週土曜日に公開授業を実施し、授業時間を確保している。
- ・ 教育課程の特例として、高校段階の指導内容の一部を中学校段階へ移行する「つなぎ学習」を実施し、中高の教員によるチーム・ティーチングで高度な学習内容を定着させている。
- ・ 中学校では、基礎学力の定着と向上を図る教育活動MSU (Morning Skill Up Unit) を展開している。第1時限目の日課に位置づけ、20分ずつ区切り、国語、数学、英語の学習内容を中心に、コンピュータを使用した学習活動を設定した。一人一台のノートパソコンを活用したeラーニングをベースとして、基礎学力の向上を図っている。特に語彙力の習得には効果的で、英語検定や漢字検定の高い合格率につながっている。

□ 英語による実践的なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成する取組

- ・ 中学校では、第3学年の2月下旬に、オーストラリアにおいて海外フィールドワーク（語学体験研修）を全員参加で実施している。中学の英語教育の集大成として、現地校の授業に参加し、英語によるコミュニケーションなどの体験活動を通して、豊かな感性と表現力を育成している。
- ・ 高等学校では、シンガポール修学旅行をはじめ、さいたま市の姉妹都市であるアメリカ・ヴァージニア州リッチモンド市との交流や、留学生の派遣や受入など、グローバルな視野を育むための取組を積極的に行っている。
- ・ 6年間を通して、ディスカッション、スピーチ、ディベート、パネルディスカッションなどの学習を計画的に取り入れ、英語による実践的なコミュニケーション能力を育成している。

□ さいたま市立浦和高等学校第3学年生徒アンケートより（平成24年12月実施）





□ 特色ある教育実践を市内中学校に普及

- ・ 自主研究授業 平成22年11月12日（金）参観者数43名
 教育実践を幅広く公開し、自校の授業改善に役立ててもらうため、教職員等対象の公開授業を実施した。国語の授業では、弁論の方法について、生徒たちが自分で話す様子を収録したものをパソコンで再生して確認するなど、ICTを活用した授業の様子を紹介できた。
- ・ 研究授業 平成23年7月15日（金）参観者数67名
 さいたま市教育委員会から「道徳」の研究指定を受け、自立心や自律性を育むために学校が設定した課題について研究し、道徳教育を推進した。
- ・ 研究授業 平成23年11月8日（火）参観者数98名
 平成22・23年度の2年間にわたり、さいたま市教育委員会の委嘱による「教育課程」の研究校として、「併設型中高一貫教育校における特色ある教育活動を通じた指導方法の工夫」を主題に、学校をあげて研究に取り組んだ。これらの指導案や教材例を報告書にまとめ、市立中学校等に配付した。
- ・ 研究授業（平成24年度・平成25年度の2年間）
 さいたま市教育委員会の委嘱による「教育の情報化」の研究校として、「ICTを効果的に活用した授業の工夫」を主題に、学校をあげて研究に取り組んでいる。平成24年度においては、指導主事を招いて計画的に校内研修を実施し、授業の工夫改善を行った。また、ICTの効果的な活用を図り、生徒の視点に立った教材研究と教材開発の工夫を行った。
- ・ MSU（Morning Skill Up Unit）教材の提供
 MSUにおける数学教材の普及を図るため、市立中学校からインターネット経由で接続し数学教材データをいつでも活用できるよう整備した。さらに、活用マニュアルを作成し、すべての市立中学校に配付するとともに、平成24年11月に実施した市教育研究大会（中学校数学部会）において指導主事から具体的な活用方法について周知した。
 各中学校の活用方法は、学年を問わず、定期テスト前に補習学習で活用されたり、教育相談室に通っている生徒に個別学習で活用されたり、放課後の自主学習や夏季休業中の補習で活用されたりした事例がある。また、「土曜チ

チャレンジスクール」などに提供し、活用されてもいる。

検証と課題 (○成果 ●課題)

- 中学校では、年間総授業時数の充実により、特に国語、数学、英語に多くの学習時間を確保し、基礎学力を確実に定着させ、確かな学力が育成できた。
- 中学校では、高等学校の学習内容を加味した「つなぎの学習」を実施することにより、発展的な学習へのモチベーションを高めることができた
- 単に知識量を増やすための学習だけでなく、少人数による参加型の学習形態や、高等学校教員とのチーム・ティーチングによる高度な学習への取組により、物事を見抜く洞察力や課題を解決する論理的思考力の育成ができた。
- 中学校、高等学校とも、英語の授業において学習内容に応じた少人数指導やディスカッションを積極的に取り入れることにより、高いコミュニケーション能力を育成することができた。
- 情報機器を活用した ICT 教育や、ディベート、スピーチコンテストなどの実践により、プレゼンテーション能力が育成できた。
- 海外フィールドワークの体験などを通して、豊かな感性・表現力を備え国際的な視野を持って活躍できる活力ある人間を育成することができた。
- 特色ある学校行事を通して、一人ひとりが帰属意識や連帯感を持って、自己のよさや可能性を集団の中で生かしている。このことは、学級での活動や学校行事といった特別活動の充実が大きな要因であると捉えている。さらに、教員との信頼関係や落ち着いた学習環境、魅力ある学級づくりも大きな役割を果たしている。
- 数学教材を市内各中学校へ提供する環境を整えたが、本市の学校教育全体の質の向上に資するように、継続的に普及していくことが求められている。
- 中学校から高等学校へと校種が変わる併設型中高一貫教育校であるため、教職員の交流授業の充実や、接続期の教育活動の工夫改善がこれまで以上に求められる。

検証項目3 中・高6年間の一貫した教育活動による「豊かな人間性・社会性」と「確かな学力」の育成について

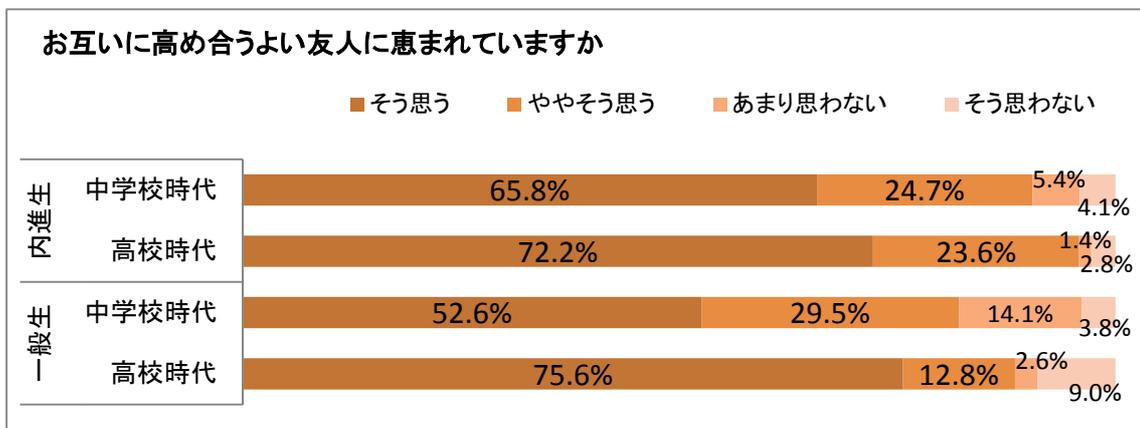
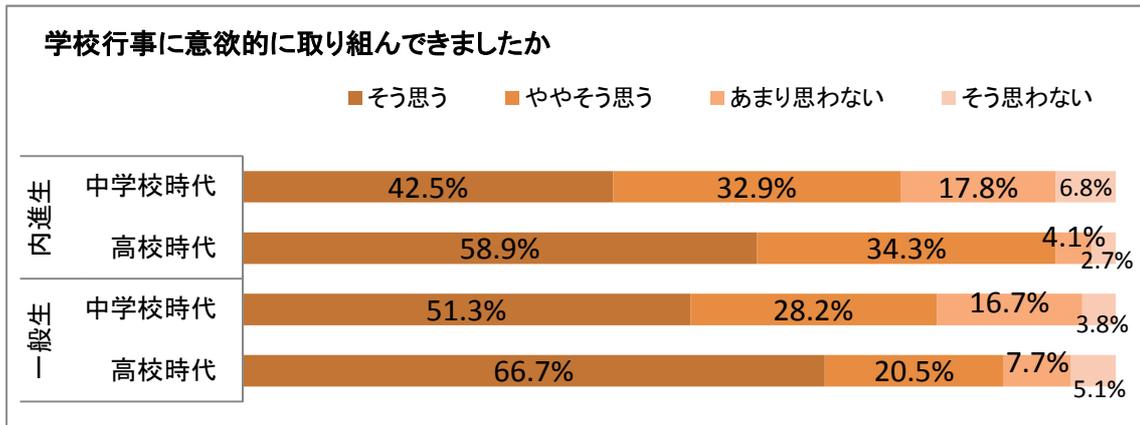
□ 「豊かな人間性・社会性」の育成

- ・ 高校生がインタープリター(学習ガイド)を務める日本科学未来館実習、体育祭、文化祭、ロードレース大会等、中高合同で実施する学校行事、部活動等で、異年齢による交流を行っている。
- ・ 高等学校に内部進学後、部活動においてはサッカー部をはじめ、11の部活動で部長を務めるなど、リーダー性を発揮している。また、英語スピーチコンテスト県大会優勝、高校生英語ディベート世界大会のレギュラーメンバーとして出場など、一般生とともにダイナミックな活躍をしている。
- ・ 平成24年度の体育祭については、従来の学年別でなく、中学1年生から高校3年生までの縦割りブロックで競技や団体種目などを行った。中学生の得点が加点されるシステムとなり、中学生と高校生が互いに応援し合うなど連帯感が高まり、望ましい人間関係の構築に向けた異年齢交流が図れた。

□ 「確かな学力」の育成

- ・ 中高とも数学、英語の授業では、学習の到達状況に応じた少人数クラスで確かな学力の育成を図っている。
- ・ 少人数による学習形態の工夫や中高のチーム・ティーチングによる高度な学習への取組により、物事を見抜く洞察力や課題を解決する論理的思考力を育成している。また、外部機関(大学)との連携で専門性の高い内容を学び、知的好奇心を高めている。
- ・ 高等学校では、一般生は人文系と理数系に分かれるが、内進生は5教科7科目の国公立大学受験に対応できる教育課程としている。
- ・ 高等学校では、校内学力向上委員会を設置し、国立難関大学向け問題作成や自習室の閉室時間の延長などにより学力向上を図った。
- ・ 高等学校では、3年生を対象に2泊3日の勉強合宿を実施し、内進生と一般生とが切磋琢磨し学力向上に努める場を設けた。
- ・ 各種外部調査等の結果から、中高とも高い達成度の生徒が多数見られ、一般生を含め確かな学力が育成されている。

□ さいたま市立浦和高等学校3年生生徒アンケートより（平成24年12月実施）



検証と課題 (○成果 ●課題)

- 高校への内部進学後、多くの内進生が、積極的な生徒会活動への参画、英語スピーチコンテスト県大会優勝、高校生英語ディベート世界大会レギュラーメンバーとして出場などの活躍をしている。
- 意識の高い集団の中で、安定した人間関係をつくることができ、生徒一人ひとりが帰属意識や連帯感を持って学校生活を送ることができた。
- 様々な学習内容や学習形態により、意欲的に学習に取り組む生徒が増加し学力の定着が図れた。
- 高い志を育てる継続的な進路指導により、中高一貫教育校での学校生活の総決算としての進学結果が得られた。
- 内進生と一般生が、お互いに切磋琢磨し、刺激し合うことで第一希望をあきらめない高い志のもと、学力向上に努めた。
- 様々な中高合同の教育活動に取り組んでいるものの、異年齢集団の交流について、改善が求められる。

- 生徒を6年間預かるという中高教員の一体感の高揚を通して、実践している教育は自分たちの責任であるという意識を強く持つことが必要である。
- 一部の生徒は、学習内容の定着に課題を抱えているため、補習の充実や、内発的な動機付けを行うなど、支援体制の工夫が必要である。

□ 第1期生の大学合格状況（76人）

＜国公立大学等 28名＞

大学名	合格人数
東北大	1
筑波大	3
千葉大	1
宇都宮大	1
埼玉大	6
埼玉県立大	1
東京大	1
一橋大	1
東京外語大	1
お茶の水女子大	3
東京海洋大	1
電気通信大	2
首都大東京	2
富山大	1
新潟大	1
防衛大学校	1
自治医大	1

＜私立大学 223名延べ人数＞

大学名	合格人数	大学名	合格人数
青山学院大	5	帝京科学大	1
麻布大	1	東京家政大	1
大妻女子大	2	東京純心女子大	1
学習院女子大	3	東京女子大	8
学習院大	4	東京農大	5
関西学院大	1	東京理科大	8
関西大	1	東邦大	1
北里大	3	東洋大	6
慶応大	9	獨協大	2
國學院大	2	二松学舎大	1
駒澤大	1	日本大	6
芝浦工大	4	日本女子大	9
上智大	10	フェリス女大	1
女子美大	2	文教大	1
昭和大	2	法政大	11
昭和女子大	4	星薬大	2
昭和薬大	2	武蔵野美大	2
白百合女子大	1	明治大	25
駿河台大	1	明治学院大	1
成蹊大	7	明治薬大	2
玉川大	2	立教大	20
多摩美大	2	立正大	1
中央大	7	立命館大	1
津田塾大	9	早稲田大	19
帝京大	1	青山学院女短	2

＜進学準備 13名＞

＜海外の大学 1名 高校2年生8月に留学＞

大学名	合格人数
University of Edinburgh	1

(5) 検証のまとめ

市立浦和中・高等学校の併設型中高一貫教育校では、6年間を見通した計画的・継続的な教育活動を積極的に展開しており、生徒の個性の伸長や優れた才能を発見し、それらを伸ばすことができた。

また、高い志を育てる継続的な進路指導により、卒業後の進路実現に向けて一人ひとりが努力して、6年間の中高一貫教育校での学校生活の総決算としての進学結果が得られた。さらに、学習面において内進生と一般生が、お互いに切磋琢磨し、刺激し合うことで学力の向上に努め、多くの生徒たちが第一希望の進路を実現した。

しかしながら、生徒アンケートや意見交換会からも読み取れるとおり、今後、中学校と高等学校の接続期である中期課程における連携を強化し、教育活動の連続性を高める必要がある。また、学校行事等における中学生と高校生の交流活動について工夫改善することにより、異年齢集団における生徒の育成をさらに推進する。

6 おわりに

本市における併設型中高一貫教育校が設置されて、初めて6年間の検証を実施した。明らかになった成果を一層充実させるとともに、市立浦和中学校・高等学校、市教育委員会が一体となって課題に取り組み、その解決を図り、さらに市民の期待に応える中高一貫教育校となるよう努めていく。